



ドローンを活用した
アクセシブル・ツーリズムの推進事業

ナレツジ集

- 令和7年3月 -

Intentionally Blank

目次



01

はじめに

02

ドローンを活用したアクセシブル・ツーリズムツアー
造成のポイント

● ドローン ● アクセシブルツーリズム ● ツアーの魅力

03

令和6年度ドローンを活用したツアー造成等支援補助金
事例集



ドローン技術進展と活用の拡がり

近年、さまざまな分野でデジタル技術の導入が進む中、観光業界においても、デジタル技術を活用し新たな体験価値を提供できるようになってきました。

たとえば、高精度位置認識技術、XR技術等のデジタル技術を活用することで、地域の魅力をより深く味わうことができたり、地域の歴史や文化をより深く学ぶことができる体験を提供する取組がはじまっています。

ドローンの活用も、こうした新しい技術を取り入れた取組のひとつです。

従来、観光業界におけるドローン活用といえば、プロのドローン操縦者による魅力的なプロモーション映像の撮影や、記念撮影などの用途が中心でした。しかし、技術が進展し、また法制度などのルールも整ってきたことから、さまざまな活用可能性が広がっています。

法制度等の面では、2022年12月5日から、有人地帯（第三者上空）での補助者なし目視外飛行が可能となっています。また、技術開発の進展においては、遠隔地からの操縦や自律飛行、多数機同時運航なども可能になってきました。また、自動追尾機能のついたドローンも出ています。

さらに、離島や山間部での配送サービスの実現などさまざまな場面でドローン活用による“空の産業革命”を目指し、長距離物資輸送や、自律制御・分散制御などを可能とする機体関連技術の開発が進められています*1。また、物資の輸送だけでなく、人の移動を可能とする“空飛ぶクルマ”と呼ばれる次世代の乗り物の研究開発も進められており、2020年代後半には商用運航が拡大していくことが見込まれています*2。空の利活用が進んで移動や物流のかたちが大きく変わる未来が現実のものになろうとしています。

*1 空の産業革命に向けたロードマップ2024（2024年11月15日小型無人機に係る環境整備に向けた官民協議会決定）

*2 空の移動革命に向けたロードマップ（改訂版）（2022年3月18日空の移動革命に向けた官民協議会 第8回開催資料）

観光におけるドローン活用可能性

最新のドローン技術を用いることで、これまでできなかった新しい旅行体験が期待されます。

たとえば、下記のような活用例が考えられます。

① 距離を超えた旅行体験

インターネットを通じて遠隔でドローンを操縦することで、距離を超えて旅行体験を提供することが可能

- ドローンの技術進歩により、海外などの遠隔地からドローンをリアルタイムで操縦可能に
- 旅行者が自らドローンを操縦して見たい景色を散策することで、より強く現地への興味関心を深めたり、実際に行ってみたいという気持ちを強くしたりする効果を期待できる

② リアルでは実現が難しい旅行体験

直接散策することが難しい山頂付近や海上などもドローンなら散策が可能

- 上空からの景色や噴火口の近くなど、通常では散策できない視点からの景色を楽しめる
- 海上から見た景色など、ドローンならではの角度から楽しむことも可能

③ デジタルと融合した新しい旅行体験

VR技術等の活用により、臨場感のある映像コンテンツを楽しむことが可能

- ドローンで空撮した360°映像をVRゴーグルで鑑賞することにより、没入感の高い臨場感のある体験を実現

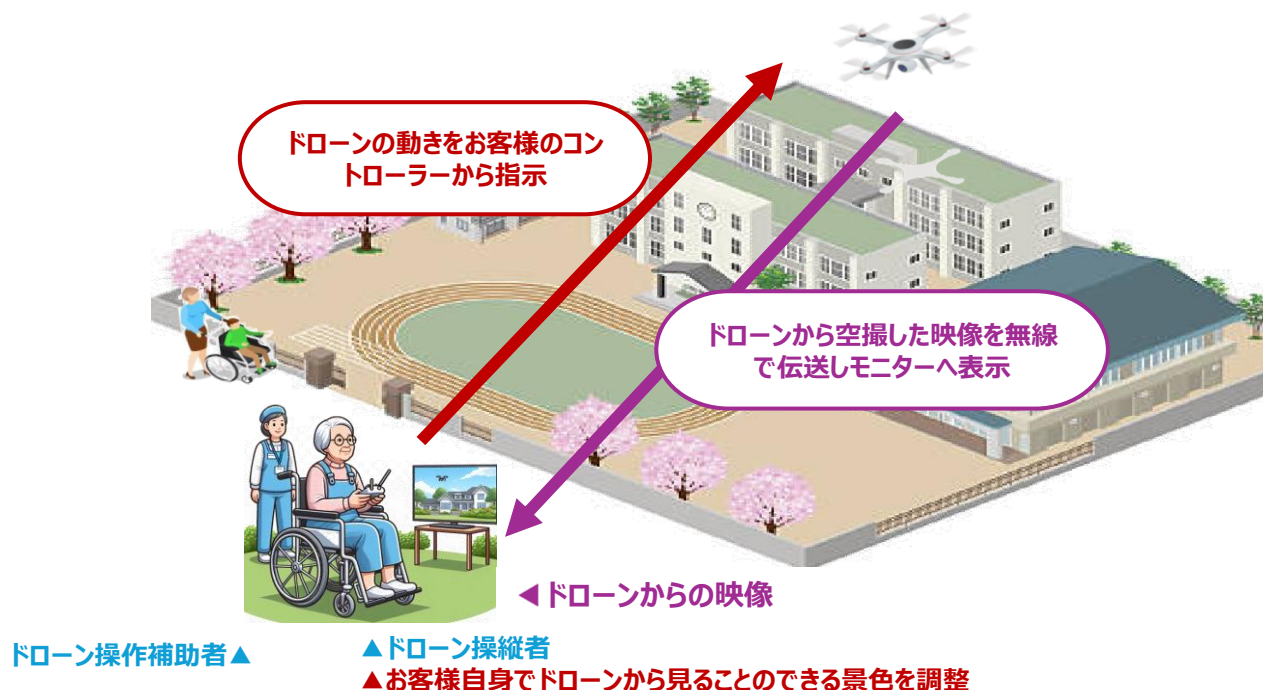
02 ドローンを活用したアクセシブル・ツーリズム

前項に記載したようなドローンの可能性は、高齢者や障害者など、移動やコミュニケーションに困難な方のニーズに応えながら、誰もが旅を楽しめることを目指す“アクセシブル・ツーリズム”の観点からも高い期待が寄せられます。

訪問体験型旅行、遠隔体験型旅行のどちらも、ドローン活用のメリットが挙げられます。

訪問体験型旅行

観光バス・介護タクシー等で観光地へ行き、ドローン操縦と上空からの景色を楽しみます。



訪問体験型旅行におけるドローン活用のメリット

● バリアフリー対応が難しい観光地も楽しめる

階段や急な坂道の上にある展望台からの景色、砂浜や渓谷など足場が悪く車いすで入ることが難しい場所など、これまで移動の困難さを理由にあきらめていた観光地も、近くの広場などからドローンを操縦することで、ドローンが参加者の目となって景色を楽しむことができる

● 空撮映像を旅行の思い出に

空撮映像はデータとして残り、旅行後に思い出として振り返ったり、家族や知人へのお土産話としても喜ばれる

遠隔体験型旅行

参加者自身は介護施設等にいながら、島しょ部などの観光地に設置したドローンを遠隔操作します。



遠隔体験型旅行におけるドローン活用のメリット

● 旅行や外出に不安がある方も能動的な旅行体験を楽しめる

実際に現地を訪れることが困難であっても、介護施設等から自らドローンを操縦して見たい景色を楽しむことができる

見たい方向や景色を自分で操作することができ、能動的に参加することができる

● 「次は現地に」とのモチベーションに

現地の様子をバリアフリー情報とあわせて知ることができれば、「次は実際に現地に行ってみよう」との意欲につながることも期待される

02 東京都が推進するツアー造成支援の取組

東京都では、障害者や高齢者など、移動やコミュニケーションにおける困難さに直面する人々のニーズに応えながら、誰もが都内観光を楽しみ地域の魅力を実感できる旅行商品を造成・販売・運営する取組について、経費補助及び必要に応じた技術的支援を実施しています。

本項では、これまでの補助事業の推進を通じて見てきた、ドローンを活用したアクセシブル・ツーリズムを成功に導くポイントを取りまとめました。

ドローンを活用したアクセシブル・ツーリズムの造成において留意すべきポイント

ドローン

- ドローンは法律や条例により飛行可能なエリア等に制限がある場合があります
- 初めてドローンを操縦する高齢者や障害者も安心して参加できるよう、十分な安全措置をとる必要があります

p.6

アクセシブル・ツーリズム

- 旅行や外出に不安を持つ高齢者や障害者が安心して参加できるよう、バリアフリー環境や移動・食事の条件などに配慮する必要があります
- ドローン操作などについても、障害の状態などに合わせて無理なくできるよう工夫が求められます

p.9

ツアーの魅力

- ドローンのセッティングや他の参加者がドローン操作しているときなど、待ち時間に飽きてしまわないよう企画の工夫が求められます
- ツアーが単なる“ドローン操縦体験会”に終わることなく、観光地の魅力が伝わる旅行体験となるよう、企画の工夫が求められます

p.10

ドローン

ドローンを活用したアクセシブルツーリズムに取り組もうと検討している旅行事業者様に向けて、参考となるポイントを時系列に沿って紹介します。

飛行地の選定



法律

法律や条令で飛行禁止されている区域等、確認

- 航空法や都条例 ※1 ※2
- 国土交通省が定める特定飛行に該当する場合の許可や申請

次頁



法的手続き

参照



許可取り

土地所有者への許可取りに難航する場合もあるため、協業のドローン事業者と連携する等して飛行地は複数選定

- 土地所有者への飛行・撮影許可

次頁



法的手続き

参照



自然条件

実施時期はドローンで撮影することのできる風景が魅力的か、離島であれば実施時期の天候は安定しているかを調査

- 屋外の場合の自然条件や観光地で場所を借りることができるか確認

ツアーの下見



ドローン飛行

ツアー実施時期や時間帯にドローンが日差しの影響を受ける場合は映像の乱れが発生する可能性があり、カメラの冷却や日よけ等の対応が必要
訪問体験型旅行で屋外でドローン映像を見る際はモニターの位置や見えやすさを考慮

- 上空からの景観
- 設営位置による電波干渉、モニター映像を見やすくする設置
- モニターやドローンの充電場所確保
- 飛行の逸脱防止等の安全措置

次頁



技術的措置

参照

※1（参考情報）国土交通省HP
無人航空機の飛行禁止空域と飛行の方法
https://www.mlit.go.jp/koku/koku_fr10_000041.html

※2 ドローン飛行に向けた法律や許可取りは協業のドローン事業者へ相談しながら進められるとスムーズです

ツアーの本番



安全性

ツアー実施時期や時間帯にドローンが日差しの影響を受ける場合はカメラの冷却や日よけ等の対応が必要

- 観光地の混雑状況や障害物
- カラス等の野生動物の影響
- ドローンを目視する補助員の配置

次頁



人的措置

参照



ドローンによる旅行の付加価値

遠隔体験型旅行でより参加者を盛り上げるための工夫

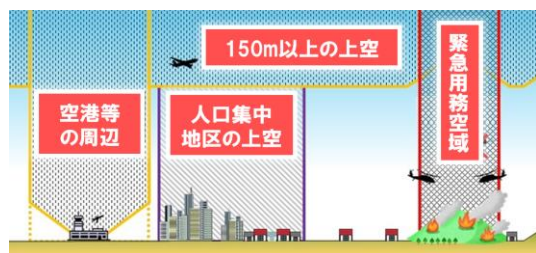
- ドローンによる空撮動画の配布や、ドローンによる記念撮影を旅後に配布
- プロによるドローン芸の披露で参加者一体となった鑑賞体験

02 ポイント

ドローンの**飛行区域が航空法の定める特定飛行に該当する場合、国土交通省の承認が必要**となります。

国土交通省の許可・承認申請には約1カ月を見込み、申請のスケジュールをたてる必要があり、飛行リスクによって必要な措置は異なるため、ドローン事業者など専門的な方と連携の上申請を進めることを推奨します。

特定飛行に該当する飛行空域



- ① 150m以上の高さの上空
- ② 空港周辺の空域
- ③ **人工集中地区（DID地区）の上空**
- ④ 緊急用務空域

飛行禁止区域の確認に対応した
スマホアプリが利用されています

特定飛行に該当する飛行方法



- ① 夜間飛行
- ② **目視外飛行※**
- ③ **人または物件から30m未満での飛行**
- ④ 催し場所上空での飛行
- ⑤ 危険物の輸送
- ⑥ 物件投下

※遠隔型企画旅行の際に考慮すべき観点となります。



法的手続き

ドローンを飛行させるには、法令や条例、その他使用場所に応じた規制の遵守が必要となり、特に、航空法と小型無人機等飛行禁止法は必ず確認し、該当の場合は許可や申請が必要です。

ドローンの飛行場所には制約があり、**飛行禁止エリア**ある事を事前に知っておく必要があります。

項目	名称	内容	規制該当エリア例
法令	航空法※ ※詳細を後頁で説明	飛ばす際に許可申請が必要なエリア、 飛行禁止エリア 、飛行方法等の規制を定める	空港、国会議事堂周辺
	小型無人機等飛行禁止法	重要施設と周辺300mに 飛行禁止エリアを定める	国の重要施設
	個人情報保護法、軽犯罪法等	空撮における盗撮の禁止、撮影物の個人情報の保護、プライバシーを定める	住宅街周辺
	重要文化財保護法	重要文化財周辺で飛ばすことを規制する	重要文化財周辺
	河川法	河川敷は地方公共団体の土地のため、管轄者の許可が必要	河川敷
条例 (東京都)	東京都立公園条例	都立公園における無人航空機飛行を原則禁止とする (河川敷を公園の対象としている場合もあるため注意)	東京都立公園
	東京都港湾管理条例	港湾施設及び港湾施設の利用者の安全確保のため許可申請を行う場合の規制を定める	東京港の港湾施設
その他	土地所有者や施設管理者への許可	私有地上空や施設での飛行には、土地所有者及び施設管理者の同意又は承諾が必要	私有地
		国有林であれば林野庁、民有林であれば市役所、私有林であれば個人の許可が必要	山間部

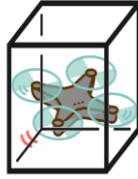


技術的措置

安全措置には大きく「技術的措置」と「人的措置」の二つあります

「技術的措置」ではジオフェンス、衝突防止機能、2パイロット機能の活用等による措置が有効です。

ジオフェンス



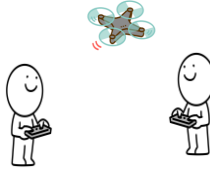
- ドローンのGPSによる位置情報を利用し、あらかじめ設定したエリアの外へドローンが飛び出さないよう、見えない壁を作る機能

衝突防止機能



- 飛行経路上の障害物を検知して衝突を回避する機能で、障害物を感知すると、移動をストップしてその場でホバリングをしたり、操縦者に警告音で知らせる機能

2パイロット機能



- 2台の送信機を使用して1台のドローンを制御する機能で初心者による操縦が難しくなった際は、もう1台の送信機からプロパイロットが変わって操縦を行うことのできる機能（遠隔での利用が可能）



人的措置

「人的措置」には補助者を配置、立入管理措置を取る等があり、国土交通省が示す安全措置推奨手段「無人航空機の飛行の安全に関する教則」は、飛行形態に関わらずご参考いただけます。

項目	内容
安全確保のための運航体制	気象情報を事前に収集し、悪天候の場合は飛行させない
操縦者	- 飲酒状態での操作は行わない - 操縦関係者であることが容易にわかる服装とする - 操縦と安全管理の役割を分割させる目的で操縦者に加えて、補助者を配置することが望ましい
安全マージン	- 飛行経路を考慮し、周辺及び上方に障害物がない水平な場所を離着陸場所とする - 緊急時などに一時的な着陸が可能なスペースを、前もって確認・確保する - 飛行領域に危険半径（高度と同じ数値又は30mのいずれか長い方）を加えた範囲は、立入管理措置を講じて無人地帯とする
飛行の逸脱防止	- ジオフェンス機能を使用することにより、飛行禁止空域を設定する - 衝突防止機能として無人航空機に取り付けたセンサを用いて、周囲の障害物を認識・回避する

訪問体験型旅行



移動に不安を抱える高齢者・障害者の方が「安心して参加できる」ツアーの設計と運営

Main Point



参加者が安心する下見

- ・ シームレスなツアーとなるよう、食事やトイレ等の際の移動導線を確認
- ・ 車いす昇降機や刻み食が必要な際の、施設へ協力依頼



参加者が安心する募集

- ・ 休憩の頻度やトイレ場所を旅行行程に合わせて案内
- ・ 介護タクシーの車両やバリアフリートイレ写真の提示
- ・ 参加者の車椅子種類（電動・折りたたみ）の確認、移動に適した車両の手配
- ・ 旅行に食事提供を含む場合、普段の食事やアレルギー有無の確認の上対応可能範囲の共有

Additional Point



操作が苦手な方への配慮

- ・ 細かな手先の操作が苦手な方へはドローンのコントローラーの取っ手を大きくする等の配慮をするなど、事前に参加者の体調や障害の具合を確認

遠隔体験型旅行



「施設にいながらの非日常体験」で外出や現地とのコミュニケーション意欲を促進するツアー設計

Main Point



参加者が安心する下見

- ・ 実施する施設の通信環境やスクリーン・スピーカー等機材を確認



募集効果の向上

- ・ 外出意欲の促進効果等から、施設のレクリエーションの一環としての企画提案は前向きに受け入れる施設が多いため、団体のお客様への提案を実施

Additional Point



操作が苦手な方への配慮

- ・ 細かな手先の操作が苦手な方へはドローンのコントローラーの取っ手を大きくする等の配慮をするなど、事前に参加者の体調や障害の具合を確認



募集効果の向上

- ・ 今後の訪問体験型旅行の募集に繋げるため、実際に訪れる際に必要となる情報やイメージを紹介。
観光地のバリアフリーマップを提供

補助事業における取組から旅行体験として魅力ある商品とするために工夫したポイントを抜粋して紹介します。

訪問体験型旅行

ドローン操縦体験会に留まらず、「観光地の魅力がより伝わる」旅行体験に



Main Point



スムーズなツアー運営

- ドローン操作のセッティングの間ツアー参加者が待ってしまうことのないように、ドローン運営は先回りしてセッティングを実施

Additional Point



ツアー満足度向上

- 自らの操作で見たい景色を自由に見ることにより空からの散歩を楽しむ



観光地の魅力発信

- ドローン操作に終わらない周辺の観光案内による観光地への理解深化
- ドローンから見ることで見ることのできる景色と併せて土地の特徴・歴史を紹介

遠隔体験型旅行

一般的なオンラインツアーとは異なり、自らのリアルタイム操作で「能動的に参加できる」旅行体験に



Main Point



ドローンの魅力的な映像

- ドローンによって見ることのできる景色がツアーの目玉となるため、ランドマークがよく見えることや、参加者が退屈にならないよう様々な景色をみることで観光地を選び、なるべく大きなスクリーンに映像を投影
- 自然の鮮やかな景色等、見たい景色がある場合には実施時期を慎重に検討し、飛行場所の管理者と調整を実施

Additional Point



ツアー満足度向上

- 五感に訴えるツアー体験ができるよう音楽や食等の内容も交える
- ドローン操作の待機中にVRゴーグルを体験する等退屈な時間を作らない工夫



観光地の魅力発信

- 遠隔の観光地からのお土産を配布



能動的なツアー参加

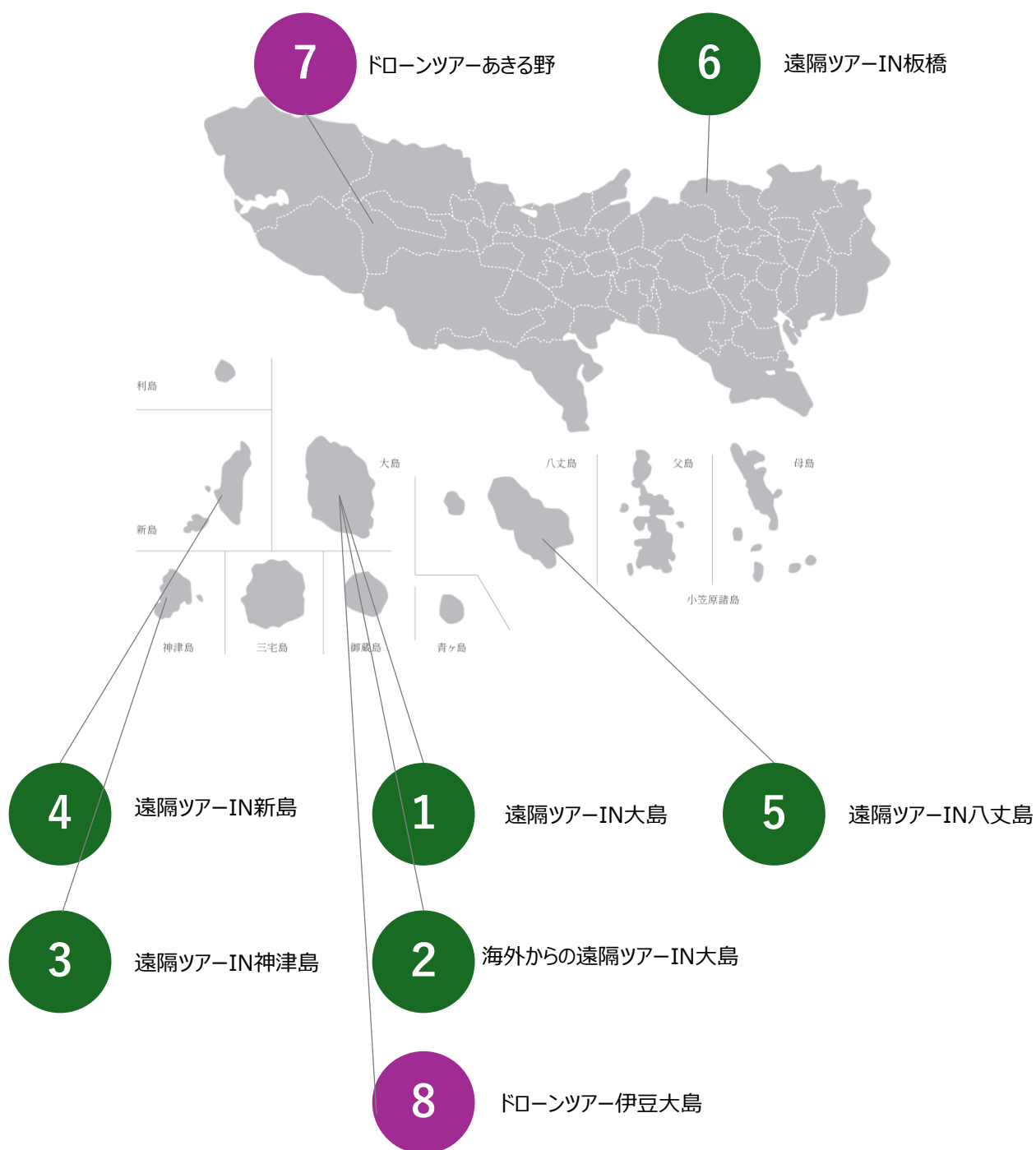
- ドローンでの景色を見る以外に、観光地の魅力を中継で配信し雰囲気味わったり現地との相互のやり取りでを織り交ぜることで能動的なツアーへの参加の促進

03 事例集

令和6年度 東京都ドローンを活用したツアー造成等支援補助金採択事業でそれぞれの事業者の工夫した点、参加者アンケートの声、観光地のポイントを紹介します

紹介事業一覧

- 遠隔体験型旅行
- 訪問体験型旅行



概要 大島のドローンを遠隔で操作することで、島の美しい景観をリアルタイムで楽しむことのできるツアー。参加者は観光地の歴史や名産品等のガイドをもとに観光地の理解を深めることができる

方式	遠隔体験型旅行	ツアー行程(60分)	
飛行場所	大島外輪山展望台	● ドローンとは？ ● 大島の観光名所紹介・現地添乗員との中継 ● 大島の名物紹介 ● 大島の空からの旅 (参加者ご自身でドローンを操縦) ● VRゴーグルを使った360°映像体験の旅 ● プロパイロットによるドローンフライト ● 大島からのお土産	
飛行地ポイント	自然豊かな大島の緑や、火山の噴火によってできた黒い砂浜の様子を見ることができる		
操作場所/参加人数	埼玉県の老人ホーム/入居者10名		
参加者年代	回答なし 70歳代 30% 80歳代 20% 90歳代 20%		



ドローンからの映像



工夫した点

- ・ ドローンの操縦者以外が待つ際に飽きないよう、VRゴーグルの体験や現地とのコミュニケーションが取れるようにした
- ・ 実際に大島へ行く手段を高齢者目線で説明し、訪問ツアーへ繋がるようにした

苦労した点

- ・ 夏場に本番を実施した際、直射日光による端末の温度上昇が映像に乱れを発生させる可能性があったため、屋根のある場所をドローン拠点とする等対応した

アンケートの声

- ・ 風が強く、操作の時間が減ってしまったことが残念だが入居者自身で行くことのできない場所を見ることができ、大変満足していた（介護者）
- ・ 自分でドローン操作をする体験はとても楽しく、また参加させたい（介護者）

概要

大島のドローンを海外から遠隔で操作することで、島の美しい景観をリアルタイムで楽しむことのできるツアー。参加者は現地通訳による観光地の歴史や名産品等のガイドをもとに観光地の理解を深めることができる

方式	遠隔体験型旅行	ツアー行程(60分)	
飛行場所	大島外輪山展望台	● ドローンとは？ ● 大島の観光名所紹介・現地添乗員との中継 ● 大島の名物紹介 ● 大島の空からの旅 (参加者ご自身でドローンを操縦) ● VRゴーグルを使った360°映像体験の旅 ● プロパイロットによるドローンフライト	
飛行地ポイント	自然豊かな大島の緑や、火山の噴火によってできた黒い砂浜の様子を見ることができる		
操作場所/参加人数	① 韓国ソウルの病院/患者2名 ② タイバンコクのデイケア施設/患者15名 ③ 台湾新北市のカフェ/高齢者23名		
参加者年代	60歳未満 5% 60歳代 10% 70歳代 30% 80歳代 12% 90歳代 5% 回答なし 18%		



工夫した点

- 海外から必ずしもスターリンクを利用できるわけではないため、スターリンクの他ポケットWi-Fiでもドローンからの映像を施設へ伝送することを事前に確認した

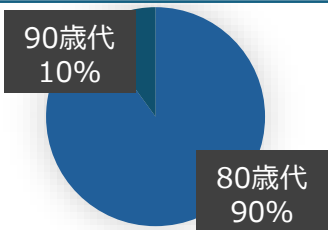
アンケートの声

- 大島以外も体験したい(参加者)
- 高齢者は外出をしにくいいため、観光地、特に海外の景色を見ることができなくて良かった(介護者)
- 企画時間をもっと長くして欲しい(介護者)

苦労した点

- 現地通訳の方とツアーの台本に沿った事前打合せを重ねたが、細かなニュアンスまでの打合せを行うのが難しく、もっと回数を重ねると良かった

概要 神津島のドローンを遠隔で操作することで、島の美しい景観をリアルタイムで楽しむことのできるツアー。参加者は観光地の歴史や名産品等のガイドをもとに観光地の理解を深めることができる

方式	遠隔体験型旅行	ツアー行程(60分)	
飛行場所	神津島 多幸湾	● ドローンとは？ ● 神津島の観光名所紹介・現地添乗員との中継 ● 神津島の名物紹介 ● 神津島の空からの旅 (参加者ご自身でドローンを操縦) ● VRゴーグルを使った360°映像体験の旅 ● プロパイロットによるドローンフライト ● 神津島からのお土産	
飛行地ポイント	白い砂浜と透明度の高い海を眺めることができ、海側からは普段見ることの難しい天上山の断崖絶壁の景色を見ることができる		
操作場所/参加人数	埼玉県 川越市の高齢者施設 / 入居者11名		
参加者年代	 90歳代 10% 80歳代 90%		



ドローンからの映像



工夫した点

- ・ ドローンの操縦者以外が待つ時間は、VRゴーグルの体験や現地とのコミュニケーションが取れるよう映像・音声をつなぐことで飽きない工夫をした

苦労した点

- ・ 下見では岩場や山頂など複数個所でのドローン飛行も試み、その中でも風が穏やかで人の立ち入りの少ない箇所を本番の飛行場所に選定した

アンケートの声

- ・ 見ることのできる映像が美しく感動し、ドキドキした (参加者)
- ・ 入居者様の笑顔や反応がとてもよかったので大満足 (介護者)
- ・ 非日常な体験が刺激になってよかった (介護者)
- ・ 今回参加できなかった方にも参加してもらいたい (介護者)

概要 新島にあるのドローンを遠隔で操作することで、島の美しい景観をリアルタイムで楽しむことのできるツアー。参加者は観光地の歴史や名産品等のガイドをもとに観光地の理解を深めることができる

方式	遠隔体験型旅行	ツアー行程(60分)	
飛行場所	羽伏浦海岸	● ドローンとは？ ● 新島の観光名所紹介・現地添乗員との中継 ● 新島の名物紹介 ● 新島の空からの旅 (参加者ご自身でドローンを操縦) ● VRゴーグルを使った360°映像体験の旅 ● プロパイロットによるドローンフライト ● 新島からのお土産	
飛行地ポイント	白浜のロングビーチや、海側からしか見ることのできない火山灰の地層がむき出しになってい白ママ断層を見ることができる		
操作場所/参加人数	神奈川県の高齢者施設/入居者10名		
参加者年代	回答なし 70歳代 9% 80歳代 36% 90歳代 27%		



ドローンからの映像



工夫した点

- ・ 新島近辺に防衛省の施設があるため飛行・空撮の調整は各所へ確認しながら進めた
- ・ 参加者側から見ることのできる画面を2画面用意し、ドローンの映像と、現地の様子を同時に映した
- ・ 音声が届きやすいようにスピーカーを導入することでコミュニケーションの活性化を図った

苦労した点

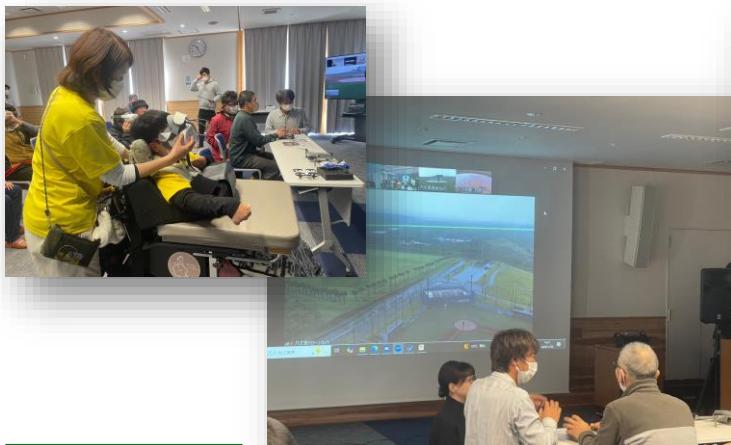
- ・ 11月は島のカラスの活動期でありドローンの飛行中に多くのカラスが集まったため、飛行を一時中断せざるを得ない状況となったが途中VRゴーグルのコンテンツを挟み、状況が落ち着くまで待つことができた

アンケートの声

- ・ 綺麗な海を見ることができ、観光地の現地へ実際に行ってみたくなった (参加者)
- ・ VRのコンテンツは初めてで、自分で操作の必要もなくおもしろかった (参加者)

概要 八丈島のドローンを遠隔で操作することで、島の美しい景観をリアルタイムで楽しむことのできるツアー。参加者は観光地の歴史や名産品等のガイド、現地添乗員との中継を楽しむことができる

方式	遠隔体験型旅行	ツアー行程(60分)	
飛行場所	八丈島南原スポーツ公園	● ドローンとは？ ● 八丈島の観光名所紹介・現地添乗員との中継 ● 八丈島の名物紹介 ● 八丈島の空からの旅 (参加者ご自身でドローンを操縦) ● VRゴーグルを使った360°映像体験の旅 ● プロパイロットによるドローンフライト ● 八丈島からのお土産	
飛行地ポイント	南原スポーツ公園からは長さ500m幅100mの範囲に広がる千畳敷と岩壁に打ち付ける波の様子を見ることができる		
操作場所/参加人数	兵庫県の障害者施設/入居者10名		
参加者年代	回答なし 70歳代 30% 80歳代 20% 90歳代 20%		



ドローンからの映像



工夫した点

- ・ 手話通訳スタッフがアシストすることで、聴覚障害の方も他の方と同時にツアーに参加することができた
- ・ 現地の気温や天気を参加者へ共有したり地元の観光協会の方への質問コーナーを混ぜることで互換性のあるツアー運営を心掛けた

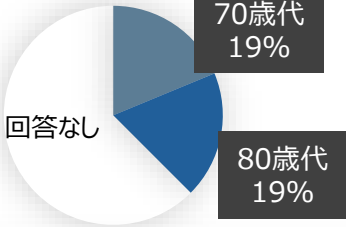
苦労した点

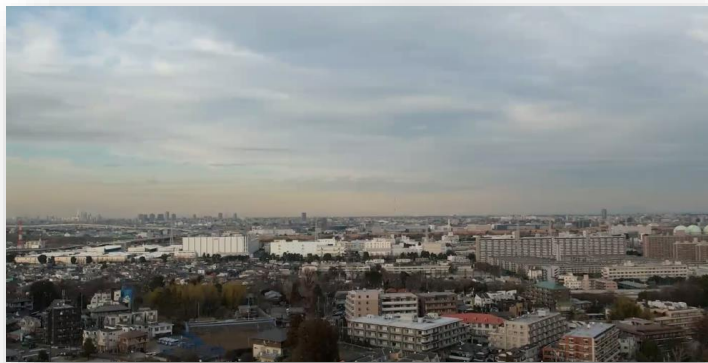
- ・ 事前に予定していた飛行地は、人の立ち入り禁止措置の徹底が難しい事や上空が開けておらず飛行が困難であることが判明したが、町役場からの情報共有により代替の飛行地を選定することができた

アンケートの声

- ・ 入居者様から現地の添乗員への質問が飛び交い、賑わった（介護者）
- ・ 八丈島の観光地を知る事ができた（介護者）

概要 板橋区にある松月院のドローンを遠隔で操作することで、お寺の境内上空から東京の景色を楽しむことのできるツアー。参加者は板橋区の観光名所のガイド、現地添乗員との中継を楽しむことができる

方式	遠隔体験型旅行	ツアー行程(60分)	
飛行場所	板橋区 松月院	● ドローンとは？ ● 板橋区の観光名所紹介・現地添乗員との中継 ● 板橋区の名物紹介 ● 松月院の空からの旅 (参加者ご自身でドローンを操縦) ● VRゴーグルを使った360°映像体験の旅 ● プロパイロットによるドローンフライト ● 松月院からのお土産	
飛行地ポイント	1492年からの歴史がある松月院は広く美しい境内を持ち、その上空からはスカイツリーを望むことができる		
操作場所/参加人数	岡山県の介護サービス施設/入居者16名		
参加者年代	 70歳代 19% 80歳代 19% 回答なし		



ドローンからの映像



松月院

工夫した点

- ・ 地域と繋がりが強いドローン事業者と協業し、ドローンの飛行申請を行った

苦労した点

- ・ 23区内でのドローン飛行であり、近隣のプライベートな情報が映りこまないようにドローンカメラの画角等に気を使った
- ・ ドローンから見ると思っていた東京大仏が上空からは見ることができないことが判明し、離れたスカイツリーを遠望、拡大して投影する対応をとった

アンケートの声

- ・ ドローンの説明が施設の利用者様にとって難しく、途中で飽きてしまう方もいた（介護者）

概要

廃校を利用した施設の校庭でドローン操縦と上空からの景色を楽しむツアー。観光バスのほか、介護タクシーも手配することで幅広い方々が参加可能。ドローン操縦体験後、あきる野市産の食材を利用した昼食の他、玉堂美術館や道の駅も巡る事ができる

方式	訪問体験型旅行	ツアー行程(1日)	
飛行場所	あきる野市しろやまテラス	● 介護タクシーが自宅まで送迎 ● 途中パーキングエリアで休憩をはさみながらしろやまテラスに移動 ● しろやまテラスでのドローン操縦 プロパイロットによるドローン芸 ● しろやまテラス内レストランでの昼食 ● 玉堂美術館へ移動・美術館の散策 ● 道の駅に移動・美術館の散策 ● 介護タクシーが自宅まで送迎	
飛行地ポイント	自然豊かなあきる野市の山間部を上空から眺めることができる		
操作場所/参加人数	介護タクシー利用者、HPから応募の計11名		
参加者年代	90歳代 9% 80歳代 9% 70歳代 54% 60歳代 18%		



ドローンからの映像



工夫した点

- 参加者が一体となって楽しむことができるよう、プロパイロットによるドローン芸（マシュマロキャッチ）を披露した

苦労した点

- 介護者のため駐車場からの導線やスロープの有無等下見をしていたものの施設内に坂が多く、移動時間を十分にとるようにした

アンケートの声

- 普段できない体験をできると前向きになる（参加者）
- 上空から全体が見れ目視で見れない場所も綺麗で驚いた（参加者）
- 自分に向かってくるドローンは楽しかった（参加者）

概要 ジェット船にて大島へ移動し、ジャンボタクシーを利用して大島内を巡りながら、ドローン操縦と上空からの景色を楽しむ日帰りツアー。バリアフリー対応をしており、車椅子利用者も参加が可能

方式	訪問体験型旅行
飛行場所	大島地層大切断面、砂の浜、トウシキ海岸
飛行地ポイント	ドローンの操縦により、海岸全体の壮大な景色や海上から見た岩場の景色を楽しむことができる
操作場所/参加人数	HPから応募を申込みの計8名



ドローンからの映像

ツアー行程(1日)

- 東京竹橋栈橋に集合
- ジェット船で伊豆大島岡田港へ移動
- ジェット船から大島内をジャンボタクシーで移動
- バウムクーヘン（地層大切断面）、砂の浜でのドローン操縦
- トウシキ海岸へジャンボタクシーにて移動
- 昼食（べっこう寿司）
- 伊豆大島岡田港から東京竹橋までジェット船にて移動



工夫した点

- ・ アクセシブルの観点から車椅子の方が段差無しの移動ができるよう、下見にてシームレスな導線確認を実施した

苦労した点

- ・ 島での大型車両のレンタルは限られていたが直接問合せを行い、手配をすることができた
- ・ 移動時間短縮のためジェット船を利用したが、本数が限られており島での滞在時間も限られてしまった

アンケートの声

- ・ 介護タクシーのドライバーとして普段タクシーに乗る車椅子の方が参加できるかどうかを検討するために参加をしたが、実行の可能性を感じた（介護者）
- ・ ドローンの操作が簡単だった（参加者）

Intentionally Blank

作成・編集

令和6年度「ドローンを活用したツアー造成等支援補助金」事務局
(株式会社NTTデータ経営研究所内)



東京都